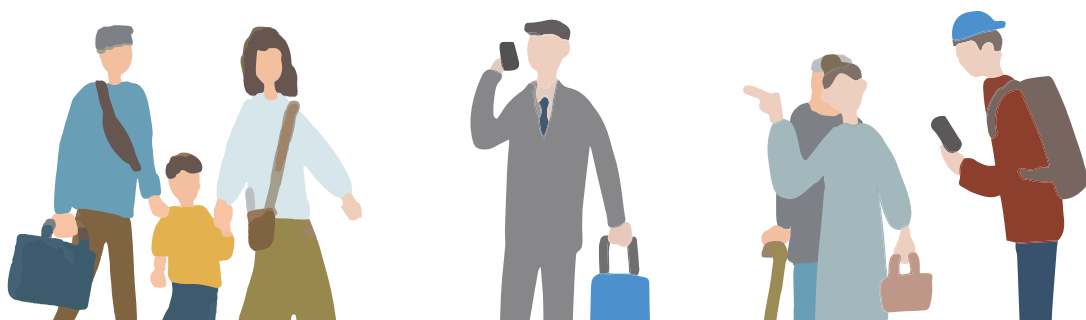


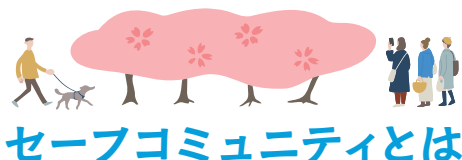
# 今日も無事で いてほしい



十和田市セーフコミュニティ  
安心・安全なまちづくり



国際安全都市



セーフコミュニティとは、“事故やけがは予防できる”という考えに基づき、皆さんの事故やけがのデータを集め、分析しながら、地域住民や各種団体、行政と一緒に安全・安心なまちづくりを推進する取り組みです。

既存団体の事故やけがの予防活動

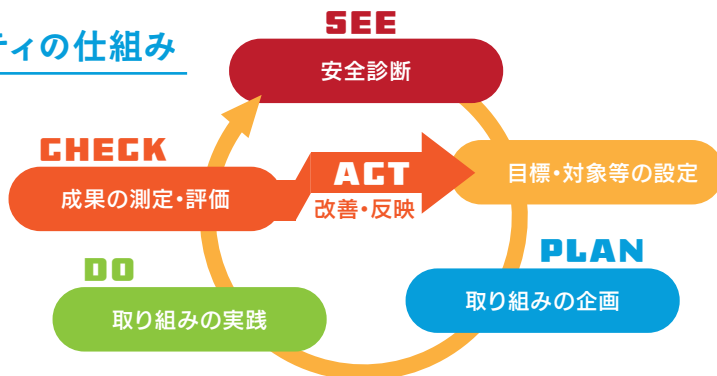


分野横断的な連携・協働

地域住民、各種団体、行政が連携・協働し、安全で安心なまちづくりに向けて改善を加えながら活動を継続します。

### セーフコミュニティの仕組み

S + PDCAサイクルを活用し、科学的な根拠に基づく分析により予防活動に取り組みます。



## 国際基準に基づく安全・安心なまちづくり



### 国際基準の認証制度

セーフコミュニティ認証制度では、国際セーフコミュニティ認証センターが定める「6つの指標」があり、これらの指標を満たしていることがセーフコミュニティ認証の条件となります。

十和田市では、2009年8月に国内で2番目、世界で159番目にセーフコミュニティの認証を取得しました。

その後、2015年2月に再認証、2020年2月に3回目、そして2024年11月に国内の自治体としては初となる4回目の認証を取得しました。

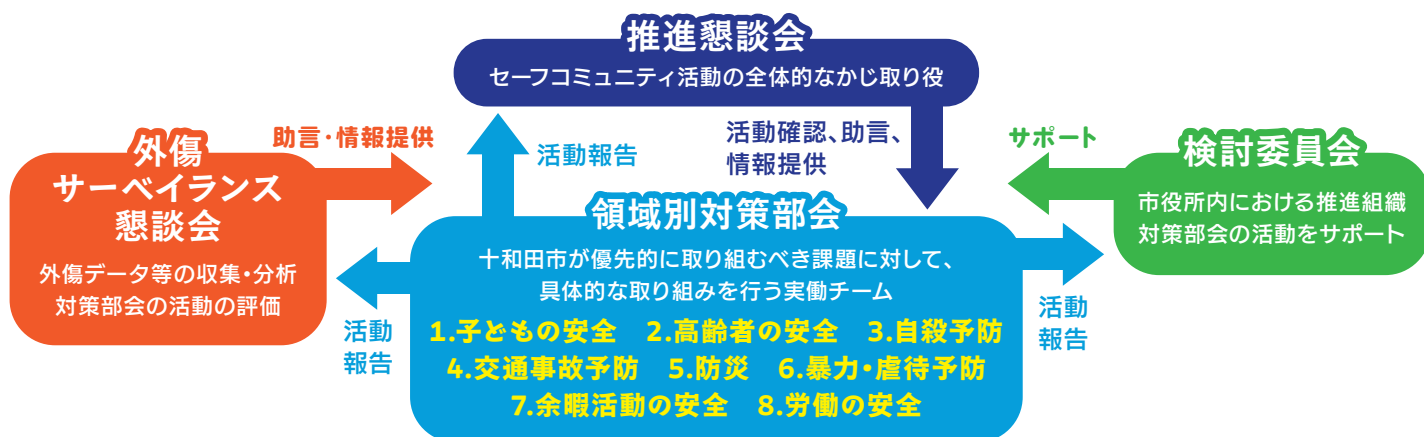
### 6つの指標

1. 自治体の行政体制と連動・融合した、分野横断的な組織が持続的な取り組みを進めている
2. 問題把握、リスクの評価、予防対策立案のために外傷及びその原因に関するデータを収集・分析し、その結果を周知している
3. 全ての性別・年齢・環境を対象とした取り組みを進めている
4. 弱者やハイリスク集団及び環境を対象とした取り組みを進めている
5. 取り組みの経過と効果の測定及び継続的なプログラムとプロジェクトの改善を実施している
6. 国内外のセーフコミュニティネットワークに継続的に参画している



## 十和田市セーフコミュニティの推進体制

十和田市では、分野横断的な取り組みによりセーフコミュニティを推進する組織として、市民団体、関係機関、行政機関で構成する「十和田市セーフコミュニティ推進懇談会」(座長:十和田市長)を推進母体とし、8つの領域別対策部会により具体的な予防活動を進めるとともに、外傷サーベイランス懇談会が外傷データの収集・分析、対策部会の活動の評価を行っています。





# 十和田市 セーフコミュニティの 歩み



7月

上十三保健所  
(現:青森県上北保健所)の  
研修会等を通じて、  
市民のセーフティ  
プロモーションへの  
関心が高まる

1月

市民ボランティア  
「セーフコミュニティ  
とわだを実現させる会  
(現:とわだセーフ  
コミュニティをみんなで  
すすめ隊)が結成

4月

市長が  
セーフコミュニティの  
認証取得を表明

8月

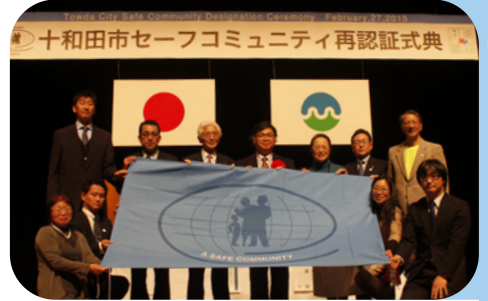
青森県立  
保健大学との  
協定締結

8月



セーフコミュニティ国際認証初取得

2月



2回目のセーフコミュニティ国際認証取得

8月

8月をいのちを守る  
運動月間とする

2004

2005

2006

2007

2008

2009

2010

2011

2012

2013

2014

2015

2025

2024

2023

2022

2021

2020

2019

2018

2017

2016

7月

交通死亡事故ゼロ2年達成  
による県知事表彰を受賞

2月

市、警察、郵便局、事業者と安全・安心見守り  
活動に関する協定を締結

5月

国立大学法人弘前大学と  
包括連携協定を締結

11月



4回目のセーフコミュニティ国際認証取得(国内自治体初)

1月



京都府亀岡市、大阪府松原市と  
「国際安全都市」を宣言



3回目のセーフコミュニティ国際認証取得





1

## 子どもの安全対策部会

課題

1. 乳幼児は自宅(屋内)での転倒・転落などのけがが多い
2. 小学校では、休憩時間でのけがが多い

主な取り組み

- 乳幼児健診を活用した注意喚起
- 保護者へのアンケート調査の実施
- ポスターの掲示や絆創膏配布による啓発
- アンケートによる各学校の取り組み調査
- 児童生徒健康増進部会における活動内容の情報交換



ポスター掲示による啓発

2

## 高齢者の安全対策部会

課題

1. 高齢者は不慮の事故(特に窒息)による死亡率が高い
2. 高齢者は外傷受傷率が高く、主な原因として日常生活での転倒・転落によるけがが多い
3. 高齢化が進み、高齢者世帯が多くなっている中、高齢者は不安を持って生活している

主な取り組み

- 啓発チラシを作成し、いきいき体操や在宅介護支援センターを通じて配布
- 高齢者あんしん見守り協力隊登録制度の周知



啓発チラシ

5

## 防災対策部会

課題

1. 毎年、住宅火災による死傷者が発生している
2. 年々高齢化が進んでおり、災害時の備えに不安がある

主な取り組み

- 住宅用火災警報器の設置・維持管理についての啓発
- 自主防災組織づくりの周知
- モデル地区を選定した啓発活動



モデル地区を選定した啓発活動(西小での防災教室)

6

## 暴力・虐待予防対策部会

課題

1. 子どもや高齢者に対する虐待、女性に対する暴力が発生している
2. 虐待を受けたと思われる乳幼児や高齢者を発見した場合でも、相談・通報しない人が増えている

主な取り組み

- オレンジリボン・パープルリボンの周知(チラシ・塗り絵)
- 暴力・虐待について解説したパネル展示
- 暴力・虐待相談窓口周知のためのチラシを作成



オレンジリボン・パープルリボン周知の塗り絵/暴力・虐待予防周知のためのチラシ

3

## 自殺予防対策部会

課題

1. 自殺の原因・動機は健康問題が最も多く、幅広い年代で自殺を誘発する
2. 身近な人が自殺の兆候に気づいていない
3. 労働者世代と高齢者世代に自殺者が多い

主な取り組み

- 市で作成した相談窓口ガイドブックの配布
- 悩み相談窓口を紹介するステッカーの作成、関係機関への配布
- こころの健康づくりボランティア団体紹介チラシの作成、配布



悩み相談窓口紹介ステッカー／こころの健康づくりボランティア団体紹介チラシ

4

## 交通事故予防対策部会

課題

1. 反射材をつける人が少ない中、歩行中の事故の多くは高齢者で、時間帯は薄暮から夜間に発生している
2. 交通事故の約半数が交差点での事故となっている

主な取り組み

- 狂犬病予防接種時における反射材の配布
- 全国交通安全運動時にイベントを開催
- 交通事故多発交差点の広報掲載
- 道路安全診断を行い、交通安全対策を実施



全国交通安全運動時のイベント(交通安全フェスタ)／道路安全診断

7

## 余暇活動の安全対策部会

課題

1. 余暇活動中の救急時に備え、誰もが救命講習に参加しておく必要がある
2. 外国人観光客が増加しており、言語について不安がある

主な取り組み

- ウォーミングアップを促すポスターの作成・配布
- 救急カードが記載されたガイドブックの配布
- 観光事業者向け応急手当講習会の実施



観光事業者向け応急手当講習会

8

## 労働の安全対策部会

課題

1. 労働災害の主な受傷原因は転倒、墜落、転落となっている
2. 農作業時にけがが発生している
3. 心の健康の不調による休職・退職者が一定数いる

主な取り組み

- 産業安全衛生大会で、パンフレット等を配布
- 事業者への労働災害防止に向けたアンケート調査の実施
- 農作業事故VR体験会の企画
- 農家への事故防止意識アンケートの実施
- 悩み相談窓口を紹介するステッカーを市内事業者へ配布



農作業事故VR体験会



家で  
できること

住宅用火災警報器の  
設置・更新を確認しよう  
防災

つまづいて転ぶところ  
がないか確認しよう  
子ども、高齢者

家族の体調や表情の変化を  
気にかけてみよう  
自殺予防



屋外  
で  
できること

夜、外出するときは  
反射材を着用しよう  
交通事故予防

自転車に乗るときは  
ヘルメットをかぶろう  
交通事故予防、余暇活動

熱中症にならないよう、  
こまめな休息や  
水分補給をとろう  
余暇活動、労働

冬季の通勤・通学時は、  
早めの行動を心がけよう  
交通事故予防、労働



普段生活している中にも、  
たくさんのセーフコミュニティ活動があります。  
チェックして、できることから  
始めてみましょう!!

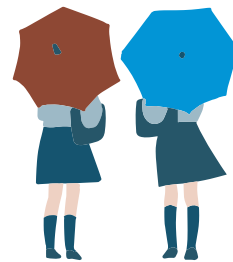


地域  
で  
できること

外出時は子どもや  
高齢者の見守りをしよう  
子ども、高齢者

地域の  
防災訓練に参加しよう  
防災

市の公式LINEに登録して、  
普段から災害情報等を気をつけよう!!  
防災



学校・  
職場  
で  
できること

悩んでいる人がいたら  
声をかけよう  
自殺予防、暴力虐待予防

仕事の際は、  
声を掛け合って、  
労働災害を防ごう  
労働



## 十和田市セーフコミュニティ推進マーク

十和田市セーフコミュニティの推進マークは2013年10月に市民ボランティア団体「とわだセーフコミュニティをみんなですすめ隊」により制作されました。

「今日も無事でいてほしい」のキャッチコピーとともに、

「十」…十和田市の安全な街並み 「和」…美しい郷土・十和田湖と紅葉 「田」…人々の協働・交流・絆を表現したデザインとなっています。

【発行】2025年8月

【問い合わせ先】十和田市民生部まちづくり支援課セーフコミュニティ係 電話:0176-51-6777 ファックス:0176-22-6299

セーフコミュニティ活動は  
SDGsの達成に寄与しています。

